

第3回 姫川有識者会議 議事要旨

日 時：平成21年11月2日

場 所：糸魚川市役所

1. 概 要

姫川水系河川整備基本方針の決定を受け、姫川水系河川整備計画を策定していくため、河川法に基づき学識経験者から意見を頂くため、第三者委員会（姫川有識者会議）を発足させ、姫川の現状と課題を踏まえ、姫川に造詣の深い学識者等から姫川の川づくりについて意見を頂き、姫川水系河川整備計画をとりまとめる

2. 主な議論の内容

(1) 資料1【第1回、第2回姫川有識者会議の内容について】

意見なし

(2) 資料2【姫川水系河川整備計画の基本理念について】

委員

基本理念の主語をどのように考えているのか。「姫川は・・・」となる主語には違和感がある。

委員

1つの文章にまとめすぎているのではないかと、再考をお願いします。

事務局

姫川を管理している者とか姫川の流域に住んでいる方々、姫川に関連する方々をすべて含めた上で、貴重な自然、歴史とともに安全、安心な川づくりを目指していくと考えている。文章がどうしても1つの文章でなければならないということはない。

委員

今までの災害で苦労してきたなか、被害に遭われた人の話を聞くと、この文章は私はよくできていると思う。

委員

姫川はやはり怖い川であると思う。

委員

基本は安全で安心できるというのが整備計画の中心的な課題であると思う。

事務局

前回の会議では、「暴れ川」という表現についてはマイナスのイメージがあるので、委員からは奴奈川姫や翡翠といったロマンチックな表現も考え方にはあるというご意見をいただいている。

委員

災害は実際にあったことなのだから、「災害とともに生きてきた歴史を持っている」ことで地域の人々の共感を得られると思う。

委員

基本理念の最初にくる表現には、一番比重を置くべき事柄が表現されるべきと思う。

座長

今回の会議では、「姫川の貴重な自然・歴史を活かしつつ、災害を教訓とした安全で安心できる川づくりをめざします。」の文案を基本として、事務局で再検討し、次回会議でもう一度議論したい。

(3) 資料3（姫川水系河川整備計画の整備目標と素案の骨子（案））について

委員

水質に関する資料のなかにある「BOD」について教えていただきたい。

事務局

生物化学的酸素要求量のことであり、水のきれいさ、汚さをあらわす指標である。数字が小さいほど水がきれいであることを示している。検出限界が0.5のため、これ以下の数値はない。

委員

植生の変化について、経年的に調査をしているか。また、北陸新幹線工事など河川で工事が行われている場合のサケの遡上数の影響について把握しているか。

事務局

水辺の国勢調査において、植生は10年毎に、魚類は5年毎に1回調査をしている。また、平成7年7月出水においては、出水後5年程度経過すると、植生が復元していることを把握している。サケの遡上数については、内水面漁協で統計をとっている。

座長

平成7年7月出水による大きな変化をデータで把握できていることは良いことである。変化の中で今の状態が、どのような位置づけにあるのかを整理していくことも必要である。

委員

平成7年7月出水後調査を行ったが、植物、水生生物は全てなくなった。植生は1年後には回復し始めている。また、水生生物や魚も5年も経過すると、もとの復元している。

委員

出水後には流木がかなり出ていると思うが、流木による障害や出水後の流木の取り扱いについても、

整理しておくことが必要である。

事務局

個人が所有している山から流れてきた可能性もあり、所有権の問題もあるため一定期間保管し、公示後、何もなければ処分をしている。

座長

姫川については、平成7年7月洪水では、流木による目立った災害はなかったという認識でよいと思う。

委員

河川の巡視については、何カ所かの巡視するポイント以外には、ボートなどを利用して確認しているのか。

事務局

出水期前に徒歩で確認を行っている。通常はパトロールカーで巡視しているが、パトロールカーが行けない場所は、通常でも徒歩で巡視をしている。

座長

巡視の状況がホームページなどで分かるようになっているのか。

事務局

関係機関との合同巡視においては、出水期前に重要水防箇所の点検や水防資材の確認を行っており、ホームページを通じて公表もしている。

委員

異常が無く安全であるという情報も、提供していくことが重要である。

座長

スリット砂防えん堤は、土砂の流出を時間的に遅らす効果はあるが、総合土砂管理としての位置付けとしては、「流す砂防」を基本としていくのか、今後検討していく必要がある。また、砂防、河川のそれぞれの管理者が情報を共有するような場はあるのか。

委員

総合土砂管理については、流砂系一貫の視点でデータを共有することが重要である。

事務局

年に1回、連絡調整会議を行っている。

座長

情報共有の仕組みについても記述すべきである。

委員

今後の安全な川づくりについて、物理的な安全性として「越水なき破堤」だけで良いのか、過去の災害が生かされているのか不安である。物理的な安全対策として根固め工と河道掘削だけで良いのか。

座長

最終的には、過去の経緯やこれまでの議論も踏まえて整備計画のメニューを示していくことになる。

委員

資料の4ページにおいて、「河岸付近は流速が速く」との表現では、「河岸付近は流速が全般的に速い」との理解につながり、誤解を生じる可能性がある。

座長

「水衝部は流速が速く」との表現で良いのではないか。また、河床変動のモニタリングについては、流量精度を向上させる目的もあるが、「越水なき破堤」と連動したモニタリングであることも示した方が良い。

座長

流量の違いによる川の主流線を見極めながら護岸計画を考えていく必要がある。

委員

モニタリングや堤防の調査に関することを具体的に整備計画に入れることはできるのか。

事務局

整備計画の中では、具体的な内容を文言として示していきたい。

委員

堤防の中身の調査も必要ではないのか。

座長

姫川の場合は材料的にもかなりしっかりしていて、強度的にはいいほうだと思う。

委員

ボランティアサポート制度というのは、どのような制度か。

事務局

ボランティアが行う活動について、国土交通省が支援する制度である。関川では堤防の花壇などの管理において事例があるが、姫川では今のところない。

以 上